

「もの忘れ外来」のご案内

高齢化にともない、「最近、物を置いた場所をよく忘れて家じゅう探し回る」「人や物の名前がなかなか出てこない」「約束ごとをよく忘れてしまう」などとお困りの方、またご家族が「家の人最近もの忘れがひどくなった」「認知症があるのでは？」などとお悩みの方はいませんか？

ご本人にももの忘れの自覚がある場合は、「加齢によるもの忘れ」がほとんどで心配はありません。しかし、一方で「認知症という病気」も含まれていることもあります。「もの忘れ外来」では、加齢によるもの忘れか、認知症によるもの忘れかの診断を行っています。



「もの忘れ外来」ではどんなことをしますか？

まず、お困りの症状がいつ、どのように始まったのかを詳しくお聞きします。その後、質問形式による簡単なもの忘れの検査（15分程度）を行います。診察の後、必要に応じて血液、尿検査、レントゲン、頭部CTまたはMRIなどの検査を行います。

どんな治療をしますか？

アルツハイマー型認知症の場合は、認知症の進行を遅らせる薬などを処方します。その他、症状への対処法や生活援助などについて相談させていただきます。



いつ受診すれば良いですか？

予約制ですので事前に外来受付で申し込んでください。
通院中の方は一度主治医に相談してください。



本人が受診したからない場合はどうすれば良いですか？

ご本人の受診が原則ですが、認知症の場合、本人に自覚のないことも多いのでご家族の相談だけでも構いません。しかし、最終的な診断は本人を診察しなければわからないこと、薬は処方できないことをご理解ください。



早期発見、早期治療の重要性

認知症は早期発見、早期治療が重要と言われていますので、少しでもお困りの方はどうぞお気軽にご相談ください。